

令和 8 年(2026 年)年 9 月 25 日

保護者の皆様へ

札幌市立栄中学校
校長 三浦 英悟

「開校記念日」のお知らせ

錦秋の候、保護者の皆様にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。日頃より本校の教育に深いご理解とご協力をいただき、心より感謝いたします。

さて、10 月 1 日(木)は、栄中学校の 59 回目の開校記念日を迎え、休業日となります(この日は、終日転送電話となりますので、ご了承ください)。また、来年度の 60 周年に向けては、今年度中に準備委員会を発足し、同窓会と連携しながら準備を進めていく予定です。

本校は、昭和 42 年 12 月 16 日、北栄中学校から 1、2 年生約 287 名を迎えて開校し、今年で 56 年目を迎えました。

この地は昔、烈々布(レッレップ)と呼ばれ、開拓の進んでいる新琴似・篠路・札幌村・丘珠など、先進開拓地に囲まれ、ほとんど鋤の入れられていない地域であったと言われていました。烈々布は、アイヌ語で「はんの木の多く茂るところ」を意味し、土地は泥炭地が多く、他の地域に比べてかなり遅くまで取り残されていたようです。記録によると、明治 25 年頃まで、烈々布地方はまだ鬱蒼(うっそう)とした昼なお暗い原始林で、入植者はほんの 6、7 人であったと伝えられています。その後、昭和 30 年 3 月、札幌市との合併により、札幌村烈々布を札幌市栄町と呼ぶようになりました。

校舎建設に際して測量を終え、基礎工事が始まったのが昭和 42 年 5 月 10 日。工事は難を極め、ようやく第 1 期工事が完成したのが昭和 42 年 12 月 11 日。まだ、全体の 5 分の 1 程度のものですが、鉄筋 4 階建ての近代建築がそびえ立つ様子は、栄地区の将来の教育文化の発展を象徴するかのようだったそうです。環境整備も一層進み、更に住みやすい街として発展を続けています。

栄中学校初代校長、平佐武彦先生は、「未来をめざし、ゆとりある格調の高い気力の充実した人となる。」ということばを掲げ、保護者の方々、地域の方々の協力を仰ぎ、職員一丸となって開校当時の幾多の諸問題を乗り越えたと聞いております。

この精神は今もなお、しっかりと受け継がれてきており、これまで築いてきた伝統の上に、「開拓の精神」の更なる発展・充実を期すべく、職員一同、今後益々の努力を重ねていく気持ちでおります。

この「記念日」に、少しでも先人のご苦勞、学校の歴史、地域の歴史等を考えることができればと思います。ご家庭でも、お子さんと昔に思いを馳せながらお話の機会を作っていただければと思います。



昭和 42 年、校舎完成。
なんと、各学年、1 組の分しか
教室がありませんでした。



開校当時のバス通学の様子です。
レトロ感たっぷりのバスですね。
学校の南側は何もありません（畑で
しょうか？）

< 新校舎（令和 3 年～） >

校舎のグラウンド
側に防球ネットが
建ちました。



< 新しい標準服やジャージ
（令和 3 年度～） >



グラウンドの南東にバックネットが、
南西にテニスコートができました。



栄中学校のグラウンド、テニスコートは貯留施設を兼ねています。
そのため、校舎や体育館よりも 30 cm 程度低くなっています。大雨、
洪水などの際に水を貯める場所となります。



ご存じのとおり、令和 3 年 1 月に新校舎に移転しました。また、改築工事が
進められていたグラウンドとテニスコートが令和 5 年 5 月に完成し、体育の授
業や部活動で活気に溢れる生徒たちの姿が見られるようになりました。